

スノーシュー（洋風かんじき）で雪上に行く

津軽白神

ふれあい通信

林野庁  
東北森林管理局  
津軽白神森林生態系  
保全センター  
平成 28 年 3 月 14 日  
No.117

## 力をひとつに -白神を愛する仲間たち-

白神山地やそれを取りまく地域では、豊かな森を後世に引き継ごうと、日々奮闘されている団体・機関が多くあります。当センターでは、そのような皆さんとの連携や協働によって、白神山地の保全や適正な利用を図っています。

このコーナーでは、関係する団体・機関の白神山地での取組などを皆さんに紹介していきます。

### # 1 津軽人文・自然科学研究会

「ボランティア活動に専念 これからも白神山地とともに」

理事長 原田 正春

平成 11 年に青森県ユネスコ協会理事で、世界自然遺産白神山地を担当している木田貴郷氏から、一般市民を白神山地に案内する「白神体験セミナー」の森林インストラクターに依頼されてから、公私ともに白神の巡視活動や植樹活動の支援などに深く関わってきました。五所川原農林林業科の担任であった木田先生の要請は断れませんでした。

体験セミナーが休止となったため、インストラクター等で、平成 17 年に、木田先生を代表とする「津軽人文・自然科学研究会」のボランティア団体を立ち上げて、体験セミナーの他、企業の支援を受けた日本ユネスコ協会連盟の要請に応じて、大規模の植樹祭を実施してきましたが、平成 20 年からは、三菱 UFJ フィナンシャルグループ（以下三菱）の支援によるユネスコの「守ろう地球のたからもの」植樹プロジェクトに取り組み、白神山地の周辺の国有林で五年間にブナ、ミズナラ、スギ、ヒバなど 10 種類以上の 10 万本を植樹することになりました。



**植樹祭の様子**

実施に際しては、津軽白神森林環境保全ふれあいセンター（現：津軽白神森林生態系保全センター）、津軽森林管理署などの関係機関や多くのボランティア団体の協力を得て「植樹専任委員会」を結成しています。さらに、木田先生の出身地である青森県大鰐町の有志による植樹造林班を結成して、なれない広葉樹主体の植樹に奮闘して頂きました。

さあこれからという時、平成21年1月、木田先生が急逝、事業

の継続が危ぶまれましたが、福井大吉氏を新会長に選出して再スタートしました。

この年の8月から「守ろう地球のたからもの」プロジェクトのひとつ、緑の絵コンクール（環境をテーマに全国の小学生が応募）入賞者家族10組を白神山地周辺に案内して、青森県鯉ヶ沢町を拠点に2泊3日の行程で山・川・海の体験ツアーを実施しています。

植樹10万本は無事に達成、この間10回の植樹祭を実施して、専任委員会所属団体の支援を得ながら三菱の職員約500名を受け入れ、津軽人文・自然科学研究会が夜は勉強会と交流会、翌日は白神を案内してきました。



**育樹活動（下草刈り）の様子  
上の写真とほぼ同じ箇所です**

平成25年からは、三菱、ユネスコの新たな要請により、現在は、植樹した1ヶ所を林野庁の「遊々の森・などわの郷」に設定していただき、新たにユネスコの「守ろう地球のたからもの・育樹プロジェクト」で下草刈り作業と下草刈りの育樹祭を実施しています。引き続き専任委員会所属団体の支援を得ながら、これまで5回の育樹祭を開催して、三菱の職員約250名が参加しています。蒸し暑い初夏の山中で、汗を拭きながら慣れない長柄の鎌で下草刈りに奮闘

してもらっています。夜はホテルの温泉で汗を流してから勉強会を開催して、私原田が講師を務めています。最後はアルコールも入って、我が会員と膝詰めで津軽弁交流となります。翌日は白神山地の高倉森を主に案内しています。

残念ながら、昨年9月に福井会長が急逝してしまいました。引き続き不幸に滅入ってしまいましたが、11月に会員と協力団体による「福井大吉さんを偲ぶ会」を開催して、育樹プロジェクトの完了を目指して、残された二年間をやり遂げる確認をしました。



「わさお」を囲んで記念撮影

今後も津軽人文・自然科学研究会の会員として、白神山地のボランティア巡視活動ならびに自然再生活動に関わっていきたくて願っています。

個人的には、健康に留意しながら、ボランティア精神でりんご農家の手伝いを積極的に取り組んでまいります。(終)

## 当センターの活動（2月）

### ○森林・林業技術交流発表会へ参加〔2/4(木)～2/5(金)〕



発表を行う久保技官

東北森林管理局では、森林・林業・木材産業の活性化を推進するための情報提供、意見交換を行い、関係者の技術の普及・向上、さらには交流の推進を目的として、毎年「森林・林業技術交流発表会」を開催しています。

今年度は、2日間にわたり、秋田市にぎわい交流館AUで開催されました。

当センターからは、久保翔太郎技官が同局の若手職員で組織するボランティア会「白神山地を持ってく会」【現：ヤマボンズ(YAMA-bonds)】

で取り組んでいた「高齢者・障がい者等を対象にした森林教室開催への取組について（中間報告）」を発表し、見事、森林ふれあい部門の最優秀賞を受賞しました。

高齢者等には無理をせず森林を体験できる場、若い世代には森林へ足を運ぶきっかけ作りになればと室内に森林を再現する疑似体験型森林教室について発表し、これま

でない着想と森林へ足を運びにくくなっている方々にも森林の魅力、楽しさを知ってもらおうという想いが評価されたものと考えています。

久保技官は、この森林教室について、皆さんにも体験できる場を設けたいと考えているようです。どうぞ皆様ご期待下さい。(石田)

## ○活動展を開催〔2/20(土)～21(日)〕



たくさんの方々にご来場いただきました

青森市アウガにて活動展を開催しました。この活動展は、ニホンジカ対策などの白神山地の保全に対する理解を促すため開催しているものです。

来場者は2日間で約200人にのぼり、「解説つきでわかりやすかった」「情報が充実していた」「孫たちにも自然に触れさせたい」「時々実施してほしい」等のご意見をいただきました。

ご来場いただいた皆様どうもありがとうございました。

なお、この活動展の様子はアウガのフェイスブックページで情報発信していただきました。(石田)



シカの頭蓋骨には「あうにゃ」もびっくり

### 編集後記

▼ふれあい通信も今年度最後の発行となりました。手にとってくださいました方、いつもご愛読いただいている皆様本当にありがとうございます。引き続き来年度もよろしく願いいたします。

▼外は徐々に春めいてきました。趣味でカメラを始め、「本番の春になる前に白鳥を撮って練習するぞ!!」と奮闘中ですが、腕はなかなか上がりません。被写体は遠くへ飛び立つ準備を着々と進めています。早く上達しなければ!!

(担当：久保)

